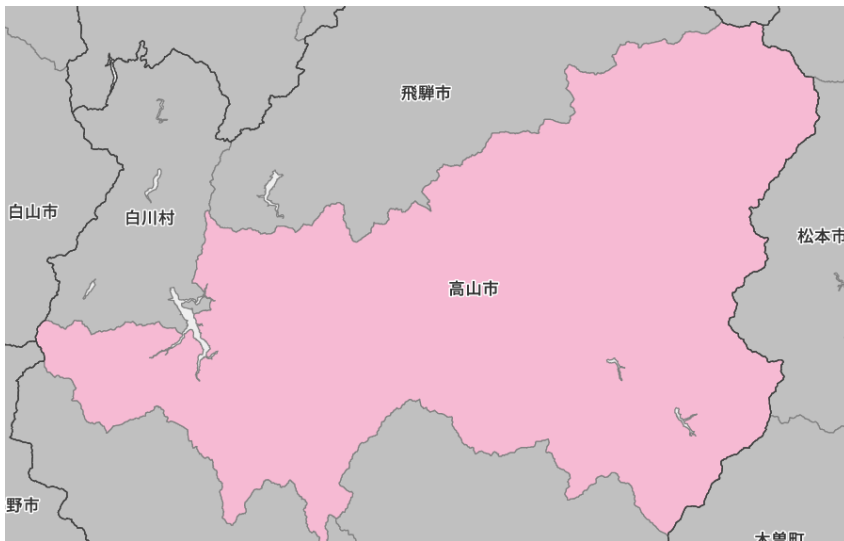
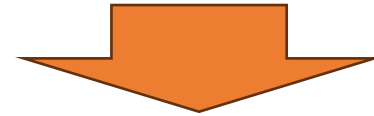


高山市におけるナショナル トレーニングセンターの 活用と地域振興の可能性

岐阜協立大学大学院 経営学研究科
大庭孝斗

高山市の状況

- ・ 標高差（市街地 6 0 0 M）
- ・ 面積は市町村別で日本最大
- ・ 山岳地帯の多さ＝高地スポーツとの親和性
- ・ 豊かな自然・森林・温泉資源を有する広域圏



**地域資源は豊富だが、
観光の季節偏在と
人口減少が課題**

飛騨御嶽トレーニングセンターの概要

【飛騨御嶽高地トレーニングエリア】



- ・標高：約1,300m
- ・旧日和田小学校を改修し整備(2020年)
- ・国のナショナルトレーニングセンター
地方拠点に指定
- ・合宿・高地トレーニング・競技力向上を
目的に誘致
- ・体育館・宿泊機能・グラウンドなど
主要設備を整備

高地環境という”希少な地域資源”を
活かす基盤が整備されている

構造的課題（地域×施設×立地）

市街地からの
距離があり
回遊性が弱い

公共交通が限定的

周辺観光との
動線が細く
連結しにくい

冬季の積雪により
稼働が落ちる
地理的制約

宿泊・交通・温泉
資源との連携が
制度化されていない

高地環境を活かした
体験コンテンツが
不足

地理的条件×連携不足の「構造的課題」が
利用拡大を拒む

研究の目的

- ①高地トレーニング施設を「地域資源」として再評価すること
- ②競技者中心の利用構造から、市民・観光客を含む多層的利用へ
拡張できるか検討
- ③高地環境×健康×観光を統合した新たな地域振興モデルの構築
- ④国の政策（スポーツ基本計画、地方創生）との整合性から
政策的妥当性を評価
- ⑤地域経済・健康増進・交流人口拡大への寄与可能性を明らかにする

現状の利用実態（年度別）

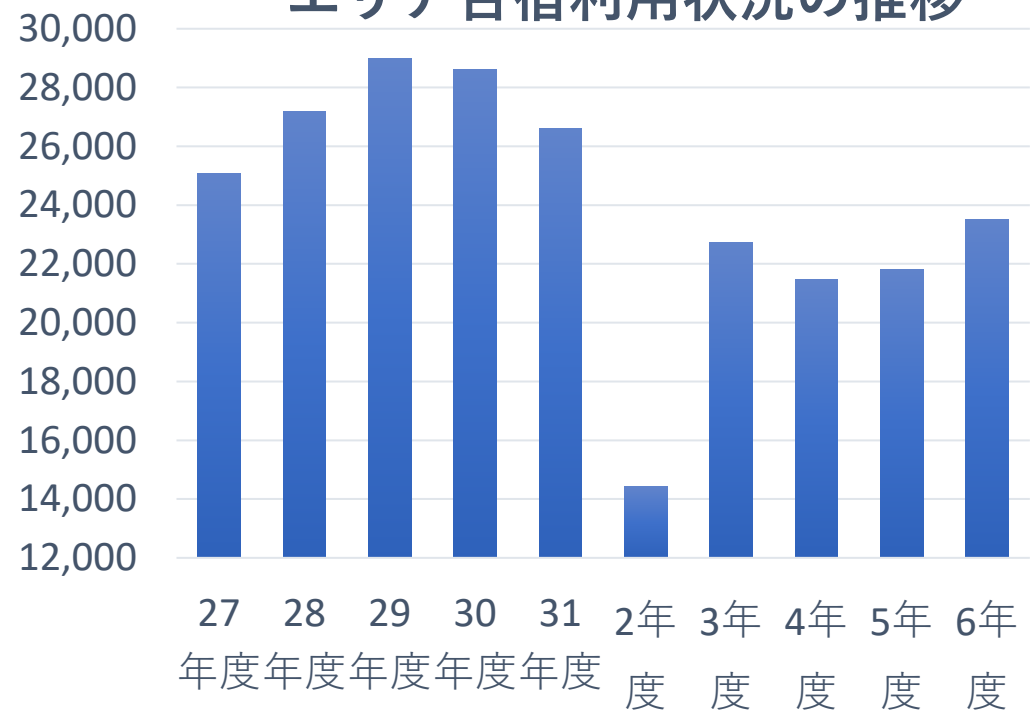
競技者向け合宿が
中心で推移している



出典：JOC NTC競技別強化拠点
飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアより

利用者数
(人)

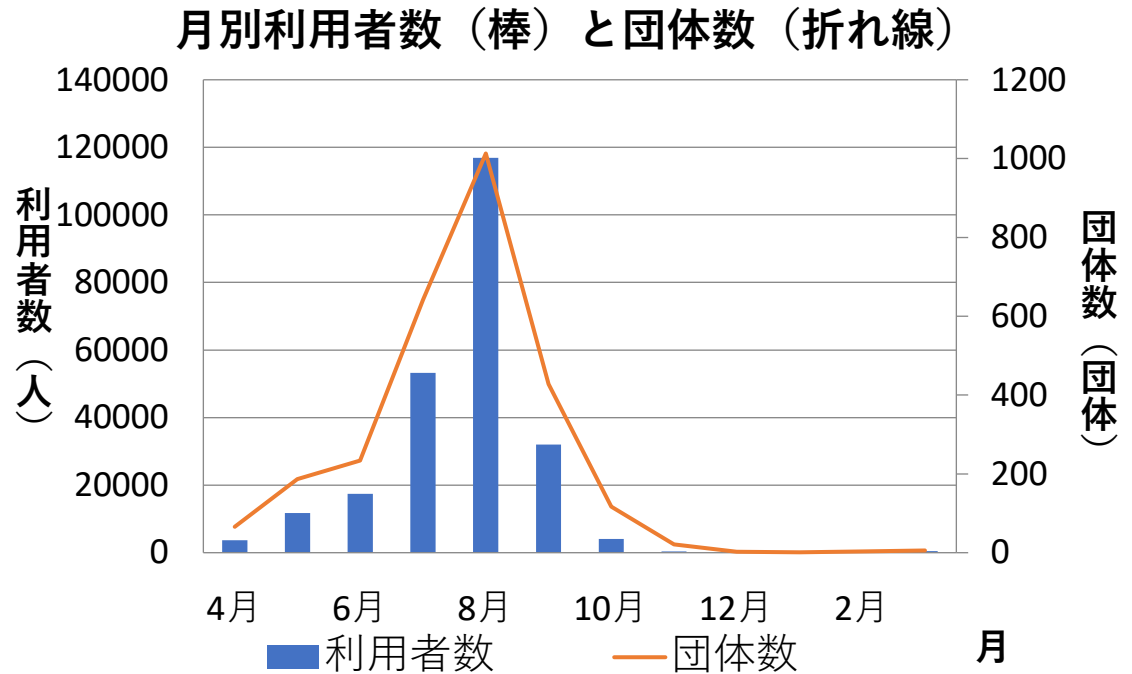
飛騨御嶽高原高地トレーニング エリア合宿利用状況の推移



出典：高山市市民活動部スポーツ推進課 提供資料（2024年）

季節別利用状況

- ・利用は春～秋に集中
- ・特に7月～8月がピーク
- ・12月～3月は積雪で利用が大幅に減少
- ・季節偏在は施設稼働の大きな課題



出典：高山市市民活動部スポーツ推進課 提供資料（2024年）

特定季節（夏）・特定層（競技者）に利用が集中しており、施設の年間稼働率が構造的に不安定である。
→ 多層利用へ拡張する必要性を示す重要な指標である

合宿風景



主な利用競技の大会実績

【パラサイクリング】(NF:中央競技団体)

主な実績(例:杉浦佳子選手)

UCI パラサイクリング世界選手権(リオ)

WC3 500m タイムトライアル:4位

国際大会における入賞者を複数輩出

【陸上競技(長距離・中距離)】

主な利用:大学・実業団・高校

全国大会出場

東海大会入賞

国体代表輩出(年度資料より)

【女子バスケットボール(岐阜女子高等)】

主な利用:高校・大学クラブ

インターハイ出場

県大会優勝

地域交流と強化を兼ねた合同練習の実施

- ・競技者向け施設としての高い有効性を示す

- ・一方、市民・観光客向けの利用は依然として限定的

→ 成果が競技者に偏在しており、高地環境の価値が一般層へ届いていない状態

これらの実績は、
高地 × 健康 × 観光 の
多層利用モデル に発展させる根拠

NTCの現状課題

【データに基づく課題】

- ・ 利用者は競技者に偏在している
- ・ 特に夏季に集中し、季節偏在が顕著
- ・ 冬季はほぼ稼働せず、年間稼働率が不安定
- ・ 市民利用、観光利用はほとんど確認されない
- ・ 利用構造が固定化しているため、多層利用への移行が難しい

**施設の特性と地域条件を考えると、
利用多層化が必要条件**

高地環境の価値(健康・生理的効果)

【高地環境の生理学的価値】

- ・ 赤血球・ヘモグロビン増加
- ・ 心肺機能の改善
- ・ 睡眠質の向上や疲労回復

など



高地環境は「健康資源」としての
潜在性が高い



高地環境の再定義

従来：競技者の体を
鍛える高地



今後：市民・観光客の
身体を整える高地



→利用対象の拡大
→新規需要の創出
→地域振興と結びつきやすい



出典：飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア
：びゅうトラベル

海外事例（高地ウェルネス）

【海外の成功モデル】

スイス・ダボス

- ・医療×自然×運動の健康滞在型リゾート
- ・長期滞在の高い消費単価



オーストリア・ゼーフェルト

- ・スポーツ＋温泉＋自然の複合型ウェルネス
- ・観光客のリピート率が高い

高地環境を「健康目的」で再利用することで
高付加価値化

飛騨地域の地域資源

【活用可能な地域資源】

- ・薬草文化（ヨモギ・トウキ）
- ・温泉（下呂・奥飛騨温泉郷）
- ・森林セラピー



出典：Wikipedia
：じゃらんnet

→健康・自然・文化を統合できる
豊かな基盤がある

これらの資源は低強度の健康体験と親和性が高く、
高地滞在と組み合わせることで相乗効果が期待できる。

統合型ウェルネスプログラム

【提案プログラム例】

- ・ 高地健康ウォーキング
- ・ 呼吸改善／森林セラピー等の低強度運動
- ・ 温泉・薬草・健康食を組み合わせたリカバリー



年間通じた需要創出・観光消費の増加が
期待される

出典：飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア
：飛騨の旅

エリア内での回遊性の創出

【エリア内の回遊ポイント】

- ・ トレーニング施設（体育館・宿泊棟）
- ・ 高地ウォーキングルート
- ・ 森林セラピーゾーン
- ・ 薬草体験ポイント（ヨモギ・トウキ）
- ・ 休息・リカバリースポット
- ・ 展望エリア（高所の景観資源）

【回遊のねらい】

- ・ 単一目的（競技合宿）から複合的な滞在体験へ転換
- ・ 滞在時間の延長 → 地域消費の増加
- ・ 季節による利用偏在の緩和
- ・ 市民・観光客を含む多層利用の促進

**施設内外の動線が
つながることで、
滞在価値と地域消費の
双方が向上する。**

エリア内部で

「歩く・学ぶ・整える・鍛える」が循環する
“回遊型ウェルネス”を実現

今後の展望と課題

【展望】

- ・ 市民・観光客を含めた多層利用へ
- ・ 官民連携による新たなプログラム創出
- ・ 高地ウェルネスのブランド化
- ・ EBPMに基づく継続的改善

【課題】

- ・ 高地順化に必要な滞在環境の不足
- ・ 季節偏在の解消
- ・ 受け入れ態勢（宿泊・交通）の強化
- ・ 持続的運営のための財源確保

まとめ

- 飛騨御嶽エリアは代替不可能性の高い高地資源を有する
- 競技者中心 → 市民・観光客を含めた多層利用へ転換が必要
- 高地環境 × 健康 × 観光の統合モデルは地域振興に有効
- 本提案は国のスポーツ政策・地方創生戦略と整合的
- 地域経済・健康増進・交流人口の循環創出が期待できる

ご清聴

ありがとうございました